

国重要無形民俗文化財

本海

獅子舞番楽

平成二十三年三月九日指定

誂い獅子
【下百宅講中】

獅子頭【堤鍋講中】

秋田県由利本荘市

本海獅子舞番楽

◆鳥海山と獅子舞・番楽

雄大で美しい姿を見せる霊峰鳥海山(国指定史跡)はかつて修験者の道場だった。山形県側の蕨岡口を順峯とし、秋田県の矢島口を逆峯とする当山派の修験道だった。その頃、芸能に優れた当山派三宝院の本海行人が、この地域に修験的な行事を取り入れた獅子舞・番楽を伝えたといわれている。

その獅子舞と番楽は総称して「本海獅子舞番楽」と呼ばれ、一般的には代々獅子頭を使う修験的な行事を取り入れたものを「獅子舞」、獅子頭を使わないものを「番楽」と分類されている。

※鳥海地域には、獅子の由来を書いた「巻物」が伝えられていましたが、昭和2年の火災で焼失。これには寛永3年(1626年)の年号と本海行人の花押があったとされています。

◆人々がはぐくみ伝承してきた獅子舞・番楽

鳥海の地に暮らす人々にとって、獅子舞・番楽は昔から生活に欠かせない存在で、春祭り(さなぶり)や秋祭り(作祭り)などではいつも獅子舞・番楽が舞われ、喜びをわかちあってきた。また、獅子頭を彫る者、衣裳をつくる者、そして芸を磨き後継者を育てていく者など、さまざまな人々が関わり、今日に至る歴史を築いてきたのである。

◆獅子舞・番楽の講中

獅子舞・番楽を四百年近くにわたり支えてきたのは信仰に支えられた講中という組織の力があってのことだった。その昔、獅子舞・番楽は若者の教育や修行の場としても大切にされていた。正月に幕開きをして獅子を振り始め、田植えが終わると毎晩練習に励み、盆には集落内の各戸で獅子を振り、秋祭りには番楽を舞い、また師走の幕納めまでの間に師匠や先輩のもとで練習の日々を重ね信仰の庭を大事にしてきたのである。

このようにして、親から子へ、子から孫へと、絶えることなく現在まで伝承されてきたのである。

◆次代への新たな展開

現在、獅子舞・番楽に限らず全国的に後継者不足が問題となっている。市では、貴重な獅子舞・番楽を

後世に永く保存し伝承するために用具の整備、後継者育成事業等々、保存伝承事業の推進に力を入れている。また、伝承者自らも獅子舞・番楽を取りまく伝承問題を解決しようと「本海獅子舞番楽伝承者協議会」を設立し、取り組んでいる。

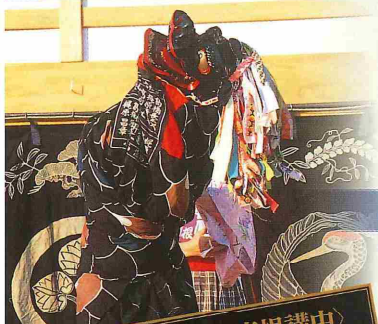
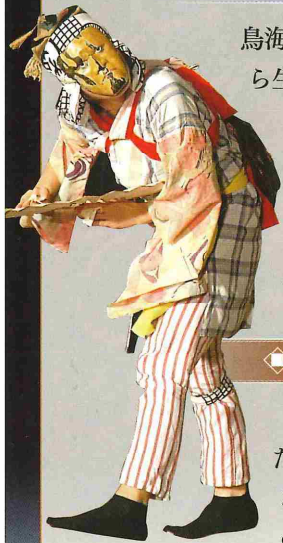
今後も、行政、伝承者、集落、研究者の皆さんが力を合わせて、「獅子舞と番楽の里 鳥海」として次代に向かって歩んでいかなければならない。



橋引<下直根講中>



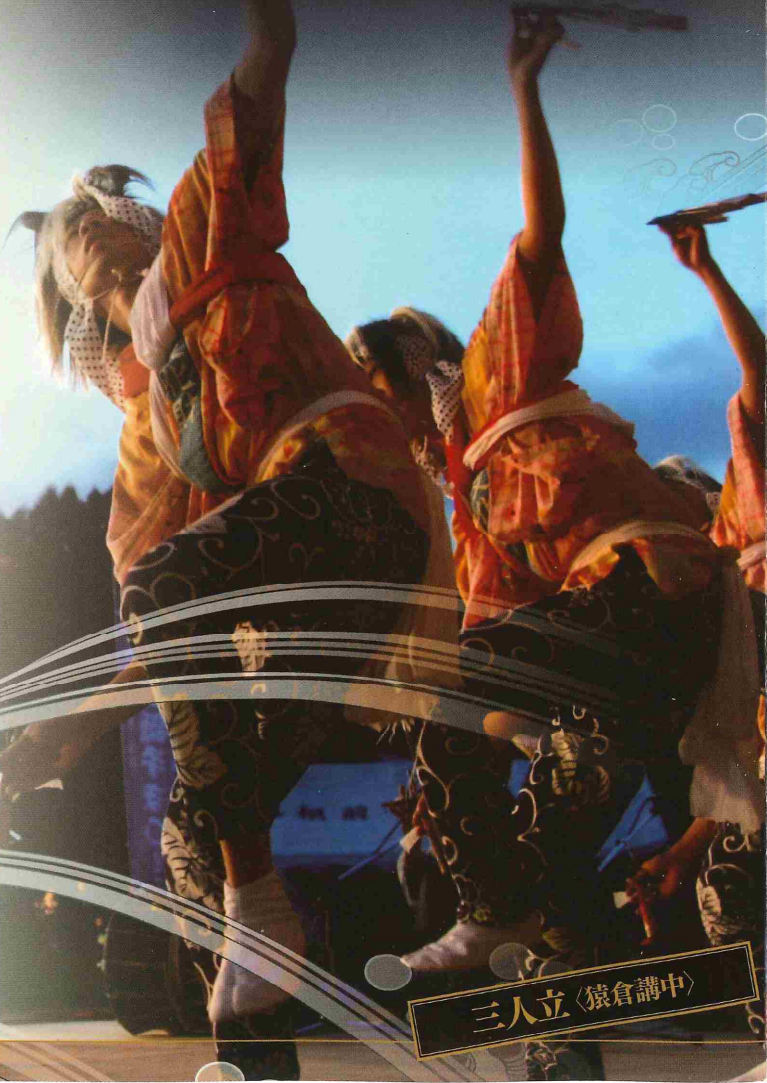
御神楽<天池講中>



祓い獅子<上直根講中>



やさぎ獅子<上百宅講中>



三人立<猿倉講中>



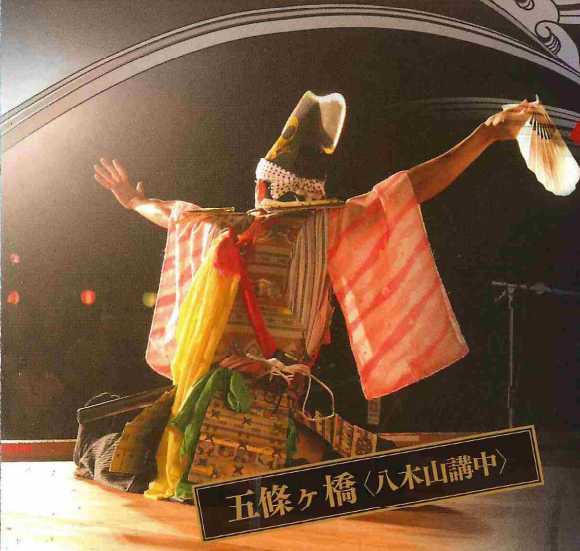
鳥舞〈前ノ沢講中〉

伊加〈二階講中〉



若子〈下百宅講中〉

三番叟〈中直根講中〉



伝承演目

獅子舞	御堂入	神舞	衾い獅子	揃い獅子
	神宮獅子(柱がらみ)	やさぎ獅子		
式舞	先番楽	鳥舞(地堅・庭堅)	御神楽	翁
	三番叟	伊加	地神舞	本海舞
	御上子(五條師)			
神之舞	山之神	三人立	剣之舞	小弓之舞
武士舞	信夫	會我(會我兄弟)	熊谷	八(屋)鳥
	藤五郎	五條ヶ橋	羅生門	夜川善次
女舞	若子(年寿・要揃)	鐘巻	橋引	機織
	天女	岩戸開き	安珍清姫	
道化舞	もちつき	番楽太郎	品ごき	
その他	花薔	猿若	風呂破り	空白舞

五條ヶ橋〈八木山講中〉



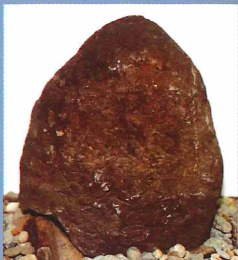
金巻〈興屋講中〉

會我兄弟〈平根講中〉



●鳥海獅子まつり

8月16日 午後5時30分開演
鳥海健康広場「特設ステージ」



安永8年の碑



明治7年本海坊の碑

○本海行人

獅子舞大先達といわれる本海行人は本海坊ともいわれているが、京都から来た人だというだけで経歴は不詳である。本海坊は鳥海の村々に教え、矢鳥で教え、荒沢を最後に70余年で没したとされ、その碑は同地の白山長根にあり、安永8年(1779)3月18日のものには「本海行人」と刻まれ、下部に蓮座図の線刻のものと明治7年申戌9月21日のものと二基建っている。

本海獅子舞番楽 伝承団体

講中名
上百宅講中
下百宅講中
上直根講中
中直根講中
前ノ沢講中
下直根講中
猿倉講中
興屋講中
二階講中
天池講中
八木山講中
平根講中
提鍋講中



問い合わせ先

秋田県由利本荘市教育委員会文化課

〒018-0692 由利本荘市西目町沼田字弁天前40-61
TEL. 0184-32-1337 FAX. 0184-33-3741

由利本荘市教育委員会鳥海教育学習課(鳥海公民館)

本海獅子舞番楽伝承者協議会事務局

〒015-0501 由利本荘市鳥海町伏見字久保193
TEL. 0184-57-2881 FAX. 0184-27-6041